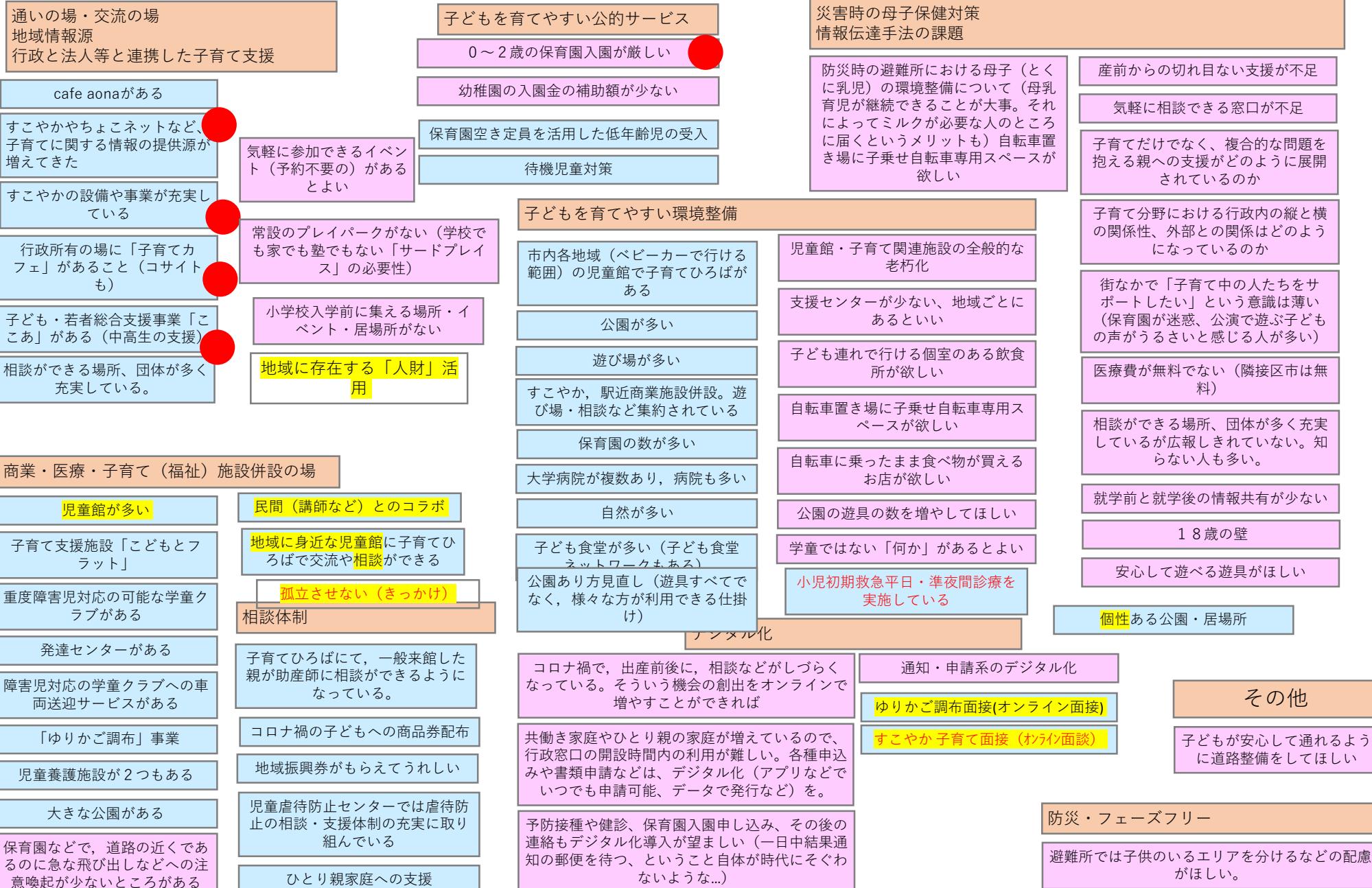
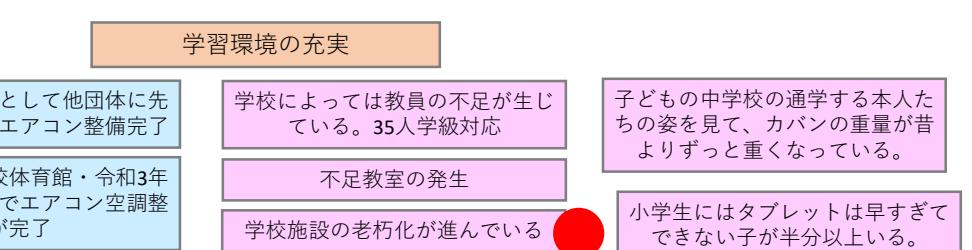
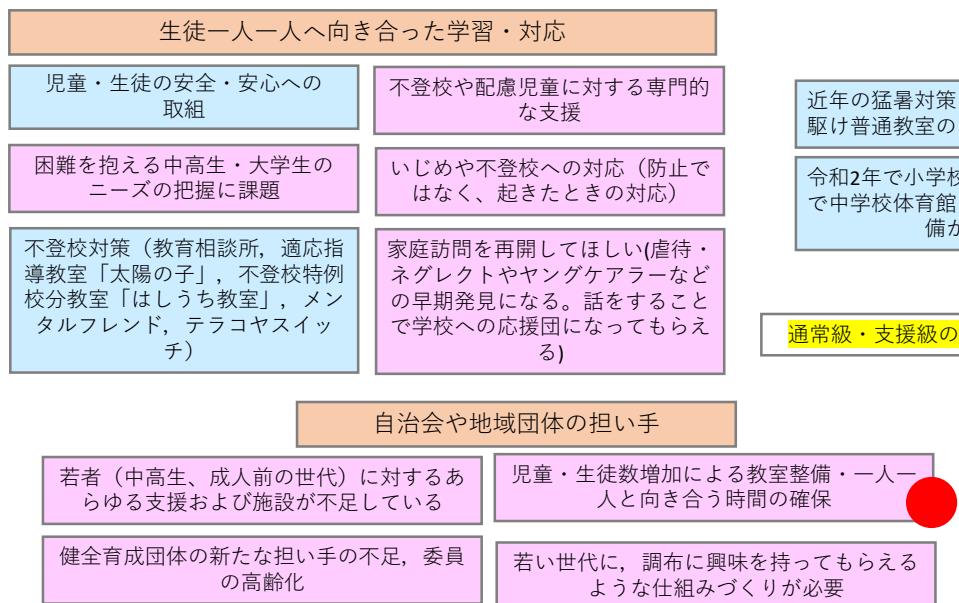
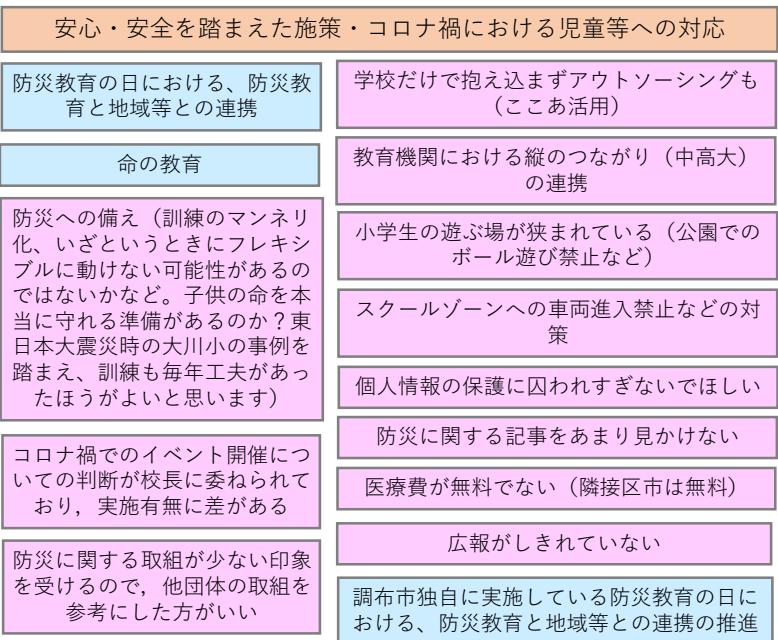
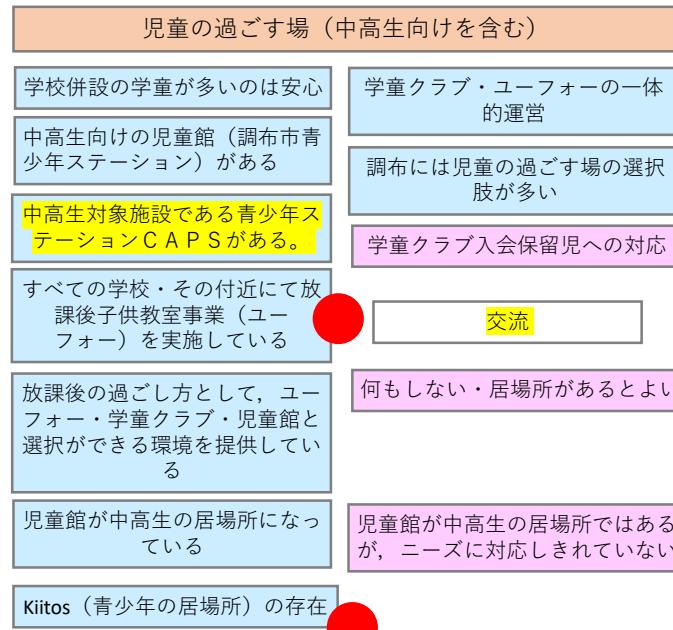


●: 2つ以上の意見



●：2つ以上の意見



● : 2つ以上の意見

地域からの見守り

子供達に関連する機関との連携がある程度取れているところ

コロナ禍における市内大学生への支援

中・高校生世代対象の施設(CAPS)

防犯カメラの設置による安全対策の拡充

学校の生徒数が多い(競争意識が芽生え切磋琢磨できる)

将来を担う子どもたちに持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs教育を充実させる必要がある

児童館が多い

大学生世代の居場所課題(年齢幅広く)

子ども・若者総合支援事業「ここのあ」

コロナ禍での外出機会の減少

学校区が横断できる

顔合わせることの大切さ

地域における自主的なフードバンク・フードパンtryの取組

スポーツ等を通じた地域交流・学習機会

地域の子供を把握している。継続的に見守れる

体験型の自然環境を学ぶ機会(環境教育)が充実している

自然や芸術を地元で学ぶ機会がある

調布市の取り組み「パラハート」の視点を、積極的に教育に導入している例がある(飛田給小学校)

各地域の青少年健全育成団体の全地区合同のソフトボール大会を市主催で開催

親が外国人であり、日本語が話せない児童向けの日本語教室

調和SHCクラブ

健全育成委員会が充実

東京2020大会開催地としてのレガシー創出に向けた取組・教育

不登校、引きこもり支援

夜間学校開設

再教育・外国の方の学び

タブレット導入を機会に、不登校の子どもたちも授業に参加できる配慮をしてほしい=教育を受ける権利

学校によって不登校対応の差がある(ステップルームのありなしetc...)

再出発の支援不足。たとえば高校を中退したその先のフォローがしづらい

市内地域によって施設・サービスの偏り

体育館やプールなど遊べる施設が遠い

若者(19歳~)支援が弱い。中・高校生世代の施設はあるが、その世代で支援が途絶えてしまうのはもったいない。やっている団体も少ない。

その他

タブレットの導入やワクチン接種の対応が早かった

子どもの魅力的な仕掛け

地域振興券がもらえてうれしい

身近な場

中高生の「他者への思いやり」「異文化の理解」などダイバーシティを育む取組を進める必要がある

個性がより認められる教育体制

多様性認める教育が十分にできていない

個性の理解

学校教育の中で、障害者に対する理解が進んでいない

デジタル化

通学路への防犯カメラ設置

オンライン授業の実施

タブレット導入により、できることは格段に増えたと思います。しかし学校によって(指導教諭によって)活用できているところと、それほどでもないところが出ていているのではないかでしょうか。そのような形での教育格差が是正されるような取り組みもセットで検討する必要があると考えます。不登校児にも教育機会を提供するきっかけにしてほしい

オンライン授業、不登校の人や病気療養中の人に良い制度なので、継続的に実施してほしい

オンライン授業は教師の習熟度によって差があった

保護者会も関係性が深まらない状況で、オンラインを活用すべき

オンライン授業でひとりの先生が約80人を対応。不慣れ。対面授業しつつ、デジタル併用が望ましい

オンライン授業で集中できない生徒もいる

●：2つ以上の意見

行政と法人等と連携した福祉のまちづくり
障害児・者支援情報の発信

行政の制度でカバーしきれない部分を、社協などの事業でカバー。新規事業も多数立ち上がり福祉が充実している。

生活福祉課にて就労支援サポートの窓口を設置している

子ども・若者総合支援事業「ここあ」にて、市3課一体として相談・学習支援・居場所提供事業を実施している。

市報やフリーペーパーなど、障害者支援の記事をよく見かける（障害者支援に力を入れているのがわかる）

他自治体より、地域福祉に関わる専門職（地域福祉コーディネーターや地域支え合う推進員）が多い。

行政の福祉三計画の策定の年度が一緒（表現もそろえられており、連携が取れている）

行政との距離が近い

通いの場・交流の場

作業所等連絡会のように、事業所間の横のつながりがある

障害分野においては親の会と施設運営者との距離が近く、ニーズを把握しやすい。

すこやか

ほっとれる。優先席もありトイレもよい

放課後等デイサービス施設が増えてきた

CSWが増えたことで、地域のニーズをスピードに吸い上げている

常設の通いの場の設置

ニーズに合った様々なつながりの場・資源

情報伝達手法
生活困窮家庭、当事者（介護者含む）の実態を踏まえた支援
各窓口の在り方

調布市の福祉サービスが良くわからない

困窮家庭への支援が届きづらい（学生、生理用品配布の事例）

ヤングケアラーへの支援（特に精神面）がない

多摩児相が遠いので手続きを市役所でしてほしい（分駐）

高齢者支援が他の市区町村に比べ少ない（免許返納でタクシーチケットがもらえるなど）。HPが見にくくてわからない（欲しい情報が見つかりにくい）

生活困窮者の相談窓口として「調布市生活ほっとあんしん相談事業」により必要な支援につなげている

図書館の利用支援サービス（障害者サービス等）が充実している

ユニバーサルデザインのまちづくり
ハード・ソフトのバリアフリー対策

甲州街道・旧甲州街道のような調布の大動脈において歩道が狭く、車いす等での通行が困難。
調布市の福祉サービスが良くわからない

障害者理解の取り組みが不足（適正かどうかも疑問）

成人した障害者に対する余暇活動ができる場がない

障害者の移動支援のサービスが先細っている

市内特養の入所がかなり困難

ヘルプカードをマークだけにして「調布市」を取ってほしい（首から下げるのではなくかばんや服につけるタイプにしてほしい）

地域・公的サービスによる見守り

健康教室や出張系のイベントがある

子ども食堂・大人食堂等の支援や交流サロンのような機会が増えた

ふれあい給食は調布独自

ゴミ袋の無料配布はありがたい

子供家庭課の方の対応がよい

ワクチン接種の対応が早かった

受動喫煙防止条例（子どもの受動喫煙防止）

医師会が地域と近い印象がある

福祉圏域の福祉コーディネーターを軸とした地域課題の解決

みまもっと
地域包括支援センター
医療的ケア対応

多世代含めた交流

デジタル化

施設の運営などは対人支援業務のため、デジタル化には限度があるが、ICTを利用して可能な限り効率化を進めようとしている

「スマートフォンを使えない」世代への支援は必要だが、いずれはすべての世代の人が使える時代に。使えない人に使い方を教えると同時に、申請代行（信頼性を担保した上で）などのサービスも提供してはどうか。

多文化共生社会に向けた認知方法がアナログ

申請書等の書類入力をデジタル化可能な部分は最大限してほしい

HPが見にくい（欲しい情報が見つかりにくい）

ニーズにあった通いの場・交流の場

地域住民同士の繋がりを得られる機会が少ない

認知症や独居の高齢者の居場所がない（歩いて行ける距離のところに、集まる場所がほしい）

目に見えない人たちの「孤立」対策が不足（福祉の政策範疇に入らないだけに、孤立している人は多いのではないか 例：非正规の若者）

おむつ補助の対象を広くしてほしい

砧公園にあるインクルーシブや遊具が調布にも欲しい

広報がしきれていない。まちを挙げた打ち出しがない

住民が交流する場、参加の拡充

共生社会を目指して、より様々な機関が縦ではなく横につながり、強い連携や協働が求められていると感じる

防災・フェーズフリー

2019年の台風では施設やグリーンホールを避難所とするなど、一定の成果が見られた。

災害発生時の要支援者の避難ケアの推進

地域福祉センター等、講座を行うような施設にWi-Fiがない

当事者の想いと他者とのギャップ（差別）

第5回会議 分科会1 まとめ

強み

弱み

テーマ① 子ども・子育て支援

ゆりかご調布面接(オンライン面接)

すこやか子育て面接(オンライン面談)

デジタル化によるサービス向上

児童館が多い

民間(講師など)とのコラボ

地域に身近な児童館に子育てひろばで交流や相談ができる

孤立させない(きっかけ)

地域に存在する「人財」活用

公園あり方見直し(遊具がすべてではなく、工夫した様々な方が利用できる仕掛け)

個性ある公園・居場所

テーマ② 学校教育、青少年健全育成

通常級・支援級の壁のない教育体制(交流)

大学生世代の居場所課題(年齢幅広く)

子どもの魅力的な仕掛け

個性がより認められる教育体制

身近な場・居場所

個性の理解

コロナ禍での外出機会の減少

本当の多様性の理解

顔合わせることの大切さ

大人の理解(不足・制限・ものさし)

テーマ③ 健康づくり、福祉(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉)

お互い知りえるような地域・つながり

住民が交流する場、参加の拡充

日常的に顔を合わせる場

多世代(だれもが)含めた交流

ニーズに合った様々なつながりの場・資源

当事者の想いと他者とのギャップ(差別、同情) 「本当の当事者理解」